

全校集会 校長講話（6月8日）

テーマ：時間は平等、使い方は「自分次第」

おはようございます。

先週の全校集会、「毎日の授業は、自分の未来を切り拓くための『頭の筋トレ』だ」というお話をしました。この1週間、皆さんそれぞれのペースで、自分に合った筋トレに励むことはできたでしょうか。

実は先週、生徒会の代表の人から、生徒会新聞のインタビューを受けました。趣味や好きな給食など、色々な質問があってとても楽しかったのですが、その中に「先生の尊敬している人は誰ですか？」という質問がありました。

先生はこう答えました。

「自分の未来を、自分の力で一生懸命に切り拓こうとしている人です」と。

歴史上で言えば、勉強の力で自分の未来を自由に選べるようになるんだと説いた福沢諭吉。現代で言えば、誰も歩んだことのない二刀流という道を、自分で決めて突き進んだ大谷翔平選手のような人たちです。

彼らに共通しているのは、自分の人生の主演を他人に譲らない、強い「当事者意識」を持っていたことです。

「当事者意識」とは、言い換えるなら「自分の人生を、誰かのせいにしない」ということです。

「友達がサボっているから自分もやらない」「雨が降って気分が乗らないから頑張らない」「部活が忙しいから今日は勉強しない」そうやって何かのせいにして諦めてしまうのは、自分の人生の運転席を、他人に譲ってしまっているのと同じです。

そして、「時間は皆に平等ですが、その使い方は自分次第です。」

1日は24時間で、50分の授業時間は、全員に平等に与えられています。その時間を「ただ座ってやり過ごす退屈な時間」にするのか、それとも「自分の未来を拓くための最高の筋トレの時間」にするのか。それは他の誰でもない、皆さん自身が「主演」としてどう動くか、つまり「自分次第」です。

誰かに言われて動く日常からは、卒業しましょう。

今日からの1週間、毎時間の授業で、自分で決めて、自分で挑む、そんな格好いい「当事者意識」を持った皆さんの姿をたくさん見られることを楽しみにしています。

先生の話を終わります。